

米軍基地関係特別委員会記録  
<第1号>

令和元年第5回沖縄県議会（定例会）閉会中

令和元年11月8日（金曜日）

沖 縄 県 議 会

## 米軍基地関係特別委員会記録<第1号>

---

### 開会の日時

年月日 令和元年11月8日 金曜日  
開 会 午前10時0分  
散 会 午前11時26分

---

### 場 所

第4委員会室

---

### 議 題

- 1 軍使用土地、基地公害、演習等米軍基地関係諸問題の調査及び対策の樹立  
(米軍MC130J特殊作戦機からの部品落下事故及び相次ぐ米軍人・軍属等による事件について)
- 2 軍使用土地、基地公害、演習等米軍基地関係諸問題の調査及び対策の樹立  
(嘉手納飛行場等におけるパラシュート降下訓練について)
- 3 米軍MC130J特殊作戦機からの部品落下事故及び相次ぐ米軍人・軍属等による事件についてに係る意見書及び同抗議決議の提出について(追加議題)
- 4 嘉手納飛行場等におけるパラシュート下降訓練についてに係る意見書及び同抗議決議の提出について(追加議題)

---

### 出 席 委 員

委 員 長 仲宗根 悟 君  
副 委 員 長 親 川 敬 君  
委 員 山 川 典 二 君  
委 員 花 城 大 輔 君

委	員	末	松	文	信	君
委	員	照	屋	守	之	君
委	員	照	屋	大	河	君
委	員	新	垣	清	涼	君
委	員	瀬	長	美	佐雄	君
委	員	渡	久地		修	君
委	員	當	間	盛	夫	君

委員外議員 なし

---

### 欠 席 委 員

宮	城	一	郎	君
金	城		勉	君

---

### 説明のため出席した者の職・氏名

知	事	公	室	長	池	田	竹	州	君						
		基	地	対	策	統	括	監	金	城	典	和	君		
		参	事	兼	基	地	対	策	課	長	溜		政	仁	君
		警	察	本	部	刑	事	部	長	島	袋		令	君	
		警	察	本	部	交	通	部	長	宮	城	正	明	君	

---

○仲宗根悟委員長 ただいまから、米軍基地関係特別委員会を開会いたします。

本委員会付議事件軍使用土地、基地公害、演習等米軍基地関係諸問題の調査及び対策の樹立に係る米軍MC130J特殊作戦機からの部品落下事故及び相次ぐ米軍人・軍属等による事件について並びに嘉手納飛行場等におけるパラシュート降下訓練についてを議題といたします。

本日の説明員として、知事公室長、警察本部刑事部長及び警察本部交通部長の出席を求めております。

まず初めに、米軍MC130J特殊作戦機からの部品落下事故及び相次ぐ米軍

人・軍属等による事件についての審査を行います。

ただいまの議題について、知事公室長の説明を求めます。

池田竹州知事公室長。

○池田竹州知事公室長 よろしくお願いたします。

それでは恐縮ですが、着席して読み上げさせていただきます。

ただいま議題となっております米軍MC130J特殊作戦機からの部品落下事故及び相次ぐ米軍人・軍属等による事件について、県の対応を御説明いたします。

10月18日、伊江島補助飛行場において第353特殊作戦群所属のMC130J特殊作戦機の部品が落下する事故が発生しました。

今回の事故は、提供施設内で発生しておりますが、部品落下を初め航空機関連事故は、一步間違えば人命にかかわる重大な事故につながりかねず、あってはならないものであり、日常的に米軍基地と隣り合わせの生活を余儀なくされている県民に大きな不安を与え、米軍の航空機整備、安全対策等に大きな疑念と不信感を抱かせるものであります。

また、在京米国大使館経由の通報はあったものの、情報が二転三転し、米軍は、事故発生当日に部品を発見していたにもかかわらず、1週間以上、情報提供がありませんでした。

ことし8月、CH53Eヘリコプターの窓が落下した際に、県から事故発生時の連絡通報体制の検証、改善を早急に行うよう強く求めた中で、米軍のこのような対応は大変遺憾であります。

県では、10月30日に謝花副知事から外務省特命全権大使（沖縄担当）及び沖縄防衛局長に対して、今回の事故の発生及び詳細な情報提供がおくれたことに強く抗議し、原因究明及び実行性のある再発防止策を講じることを米軍に働きかけることを強く求めるとともに、事故時の通報体制について、改めて日米合同委員会で検証等を行い、その内容を公表するよう要請を行いました。11月5日には、基地対策統括監から在沖米国総領事に対し、同様の抗議・要請を行っております。

また、最近、米軍人による公務執行妨害等の刑法犯罪が相次いで発生しております。

10月23日に那覇市において米国艦船揚陸艦ボクサー所属の海兵隊員が暴行で逮捕される事件が発生しました。また、同月27日に恩納村において在ハワイ州海軍所属の海軍兵が住居侵入で1名、公務執行妨害で3名逮捕される事件が発生しております。

米軍関係者による事件は、日常的に米軍基地と隣り合わせの生活を余儀なくされている県民に大きな不安を与えるものです。特に、恩納村における公務執行妨害事件については、パトカーのフロントガラスを破壊する等極めて悪質な事件であると考えております。

県では、10月30日に謝花副知事から外務省特命全権大使（沖縄担当）及び沖縄防衛局長に対して、これらの事件の発生について抗議を行い、米本国から一時的に派遣される米軍人等についても改めて、安全対策、綱紀粛正及び教育の徹底について講じるよう要請しました。

また、公務外の事件につきましては、その防止を図ることを目的とする米軍人・軍属等による事件・事故防止のための協力ワーキングチーム（CWT）において協議することとされておりますが、県のたび重なる要求にもかかわらず、平成29年4月以降、行われていないことから、速やかに開催するよう強く求めたところです。

さらに、11月5日に基地対策統括監から在沖米国総領事に対し、同様の抗議・要請を行いました。

以上で説明を終わります。

御審査のほど、よろしくお願いいたします。

○仲宗根悟委員長 知事公室長の説明は終わりました。

次に、相次ぐ米軍人・軍属等による事件について、警察本部刑事部長の説明を求めます。

島袋令刑事部長。

○島袋令刑事部長 おはようございます。

着座の上、御説明させていただきます。

令和元年9月から10月末までの米軍構成員等による刑法犯の検挙状況について御説明いたします。

同期間における米軍構成員等の刑法犯検挙は、6件8人となっており、前年同期と比較して件数の増減はありませんが、人員は1人増加となっております。

罪種別では、粗暴犯が2件2人、窃盗犯が1件1人、風俗犯が1件1人、その他が2件4人となっており、これらの事件については、那覇地方検察庁に送致しております。

御審査のほど、お願いします。

○仲宗根悟委員長 刑事部長の説明は終わりました。

次に、警察本部交通部長の説明を求めます。  
宮城正明交通部長。

○宮城正明交通部長 よろしくお願ひします。

着席の上、御説明いたします。

本年9月から10月末までの米軍構成員等による交通事故の発生状況について御説明いたします。

同期間における米軍構成員等による交通人身事故につきましては、21件発生し、前年同期と比べ6件の減少となっております。

交通死亡事故の発生はありません。

御審査のほど、よろしくお願ひいたします。

○仲宗根悟委員長 交通部長の説明は終わりました。

これより、米軍MC130J特殊作戦機からの部品落下事故及び相次ぐ米軍人・軍属等による事件についての質疑を行います。

なお、質疑・答弁に当たっては、挙手により委員長の許可を得てから行い、重複することがないように簡潔にお願ひいたします。

質疑はありませんか。

山川典二委員。

○山川典二委員 確認ですが、この米軍MC130Jの特殊作戦機から落ちたこのトルク管というのは、具体的にはどういう機能を持ってる機材なんですか。

○溜政仁参事兼基地対策課長 御説明いたします。

10月18日に落下した部品なんですけれども、米側の説明によりますと紛失した部品は降着装置というもので、メインランディングギア—主脚の部品のごとでございます。ちなみにトルク管及びばねで、その重量が0.5キログラム。全長の長さが約134センチメートルで直径が3センチメートルという御説明がございまして。

○山川典二委員 今の説明ちょっとよくわからないんですが、そのトルク管がどういう機能を果たしていて、簡単にこれが落ちるようなものなのか、その部分を知りたいんですよ。

○金城典和基地対策統括監 今山川委員が知りたいという情報を私のほうも一

応調べてみました。一般的にトルク管、またトルクチューブと呼ばれている部品があるというのは確認できております。また、このトルク管についてなんですけど、軍用機にあるものでもなくて民間機、一般の飛行機もついている部品ということまでわかっております。

ただ、実際この部品がこういった機能を持って、こういったことで機能すると。これがなくなることによってこういった影響があるということまでは、ちょっと調べることができなかつたという状況にあります。

**○山川典二委員** いや、これ調べるができなかつたって、追求すれば調べることできるんじゃないですか。民間機でもあるんであれば。つまり、何を言いたいかという、いつもいろいろ落下しますが、あくまで米軍であるとか防衛局の説明にとどまってるわけでありまして、やはり皆さんとしても、しっかりとその一この戦闘機含めて軍用機はそんないっぱいあるわけじゃないですから少なくとも部品あるいは機材のそれぞれの能力といいますか機能というか、これは少なくとも把握しておく必要があると私は思うんですけどもね、いかがですか。これを追求してやっぱり調べる必要あるんじゃないですか。

**○池田竹州知事公室長** 今防衛局通しまして照会中で、まだ返事が来てないという点もございます。それを今ちょっと独自に調べて、十分にまだ解明できないという面がございます。その点につきましては委員の御指摘のとおり、こういった機能を持ってこういった役割を果たしているかについても、きちんと改めて確認していきたいと考えております。

**○山川典二委員** ぜひですね、これはもう何回もいろんなその部品が落下してくるこの現状は、本当にゆゆしき今実態だとは思うんですね。そういう中で、しかしあくまで米軍あるいは防衛局の情報だけじゃなくて、私はぜひ米軍基地担当の対策課の中では少なくとも最低限の解明といいますか、どういう機能をしてるかってぐらいはですね、まず絵図にするとか、いろんなことでやはり整理すべきだと思いますし、それから海軍の、失礼、海兵隊であるとか、あるいはその米軍の中のホームページであるとか、あるいはそこに供給してる軍用機を供給してるそのメーカーのホームページなどもありますので、それでもある程度はわかると思うんですよ。そういう努力はやはり少なくともやるべき必要があるんじゃないかなと。本来はこちらの責任じゃないかもしれませんが、本来はね。しかし、落下するという現実、やっぱり県民の生命・財産を守るという立場のですね、観点からやっぱり県としてしっかりとその辺は整理をし

ていただきたいなというふうに要望して終わります。

それからもう1点だけ。今、ちょっと県警のほうに伺いますが、先ほど来、米軍の事故に関して沖縄に所在してない—ハワイであるとか、外来の皆さんの—外来機で乗って来るとか、あるいはその外からの所属の皆さんの事故がありますが、この飲酒含めて沖縄に所在をしてない—所属をしてない軍人の事故というのは分析はされてますか、数字的に。

**○島袋令刑事部長** 具体的に統計的には今のところ手持ち資料はございません。

**○山川典二委員** これは実は嘉手納飛行場の外来機がどんどんどんどん今ふえてる状況があります。つまりそのローテーションの中で沖縄でやはりこの何ていいますか、調整作業ができて来るとかですね、そういう中で、沖縄基地所在以外の米軍人の来る可能性が今ふえておりますし、今後もそういう状況があるかもしれませんので、それは少なくともさっきの機材のせいじゃありませんけれども、やっぱり県としてしっかりとその辺はある程度のデータを基地対策担当課と調整しながら、数字を把握しておくべきじゃないでしょうかね。例えばこれは1年前からふえたであるとか、そういうちょっと増減の実態というものをやっぱり知る必要があると思うんですよ、県議会としても。その辺はいかがですか。

**○島袋令刑事部長** 委員おっしゃるとおりごもっともだと思いますけれども、今回ですね10月末—1週間の間に立て続けにいわゆる在沖っていう形ではない部隊員による事案が連続的に発生したと。ハワイ、カリフォルニア州において、基地を持っているということで……、23日にその暴行事件が発生してその部隊員について引き続きまだ数日間いるという情報がありましたので、その日のうちに—海軍ですけども、その相手方に対してはですね、しっかり教育をしてくださいということで事故防止についても申し入れをしたところでありますし、本島内—12警察署と本部執行隊、いわゆる自ら隊とか機捜—機動捜査隊とかありますけれども、そういう状況にあるのでしっかり注意喚起しなさいと、職質を徹底しなさいというような指示は出しております。あわせてその週明けにですね、週明けにまたいわゆる公妨とか住居侵入が発生したということを受けて、きのうまでに数回に分けて米軍当局に対して、いわゆる沖縄県内に入ってくる部隊について事前に情報提供をしていただきたいというようなですね、情報提供の申し入れについては行っておって、しかるべきそういう情報収集した上で



しかるべき警察としての安全対策を講じていきたいということでもあります。

委員のおっしゃっているとおり、その線の資料についてはしっかりやっていきたいと思います。

○**山川典二委員** 確認ですが、米軍のどの部署にそういう申し入れを今されてるんですか。

○**島袋令刑事部長** 今回は海軍ということですので海軍でありますけれども、押しなべて昨日一週明けに連続発生したということで、県内の空軍・陸軍・海軍等々にですね、全てに対して行っております。

○**山川典二委員** これ知事公室長、これは県警、県警のもちろん所管がありますけどもね、やはり今、海軍・空軍・陸軍・海兵隊と4軍にわたるわけですよ。非常にこれ効率的にきちっとそれぞれの所管、何ですか4軍の割り振りはあるかもしれませんが、知事公室と一緒にあって、例えばやるような場面も多々あると思うんですよ。その辺の連携というのは今あるんですか。あるいはそういう議論をする必要があるんじゃないかなと思うんですがいかがですか。

○**池田竹州知事公室長** 先ほどもちょっと触れましたけども、いわゆるCWTがそういう役割を担ってるかと思えます。県も県警も構成メンバーになっております。それが29年の4月から私ども繰り返し開いて事件・事故、再発防止に向けた対策を外務省沖縄事務所にはやってるところですが、残念ながら、ちょっとそういう、いわゆる4軍合わせて意見交換する場がこここのところ開かれていない状況でございます。その再開は9月に知事からも4軍調整官には直接申し入れてますし、速やかな再開はするとしまして、個別の事案についてはそれぞれできる範囲で意見交換、沖縄事務所そして防衛局も交えてですね、進めていきたいと思えます。

○**山川典二委員** ぜひよろしくお願いします。終わります。

○**仲宗根悟委員長** ほかに質疑はありませんか。

当間盛夫委員。

○**当間盛夫委員** 今の山川委員の質疑の部分での県警のほうでいろいろとこの在沖ではない皆さんの把握をするための情報収集というんですか、情報提供と

いうことは、これは知事公室は29年から開かれてないと。このCWTということがあるんですけど、情報提供はなされてるんですか。

○島袋令刑事部長 情報提供はなされておられません。そういうことで申し入れをしたと。

○當間盛夫委員 今回の件も海軍であればどこどこからこういう形であるんだとか言われる。例えば空軍であればカリフォルニアからこういう形でいついつというようなものは県警は把握してるという認識でいいわけですか。

○島袋令刑事部長 情報提供、そういういわゆる国外からの情報というのは持たされてませんのでわかりません。ただ今回は事件が発生して逮捕して調べたところ、どこの部隊でどこまでいつまでいますというようなことがわかったので、そのような所要の対応とったということです。

○當間盛夫委員 公室長、これは皆さん頻繁にこういう形で在沖ではないというような部分だとか含めて、訓練等もそういう形で行われているということになるんですが、皆さんそういうのは把握できてない。先ほどの答弁、それが開かれないからその把握ができてないということなんで、どういう状況になるんですか。

○池田竹州知事公室長 例えば、嘉手納飛行場に州軍が一定期間配備される、あるいは本国からF22が配備されるというようなときには、その部隊の規模を含めて情報提供がございしますが、各それぞれの部隊—例えば海兵隊であれば日常的にローテーション的な形で配備を行っているというふうに聞いております。そのいわゆる日常的なそういった隊員の本国か、あるいはそのほかの地域からの移動等については、残念ながら情報提供が行われてはおりません。

○當間盛夫委員 じゃあ一方でね、この最近の5年間になるのか二、三年でもいいんですけど、この沖縄の米軍のその訓練等、在沖ではないいろんなところから来ての訓練等は増加する傾向にあるんですか、どうなんですか。どう把握してますか。

○溜政仁参事兼基地対策課長 米軍の運用等につきましては、防衛のほうからも問い合わせをしてないということにして、全体としては把握できていないと

いう状況です。

**○當間盛夫委員** じゃあ知事公室として沖縄県の米軍の訓練が増加してるのか減少しているのかわからないと。それを調べる手だてもないということではないですか。

**○池田竹州知事公室長** 先ほど課長からもありましたけども、米軍の訓練の状況について、例えば一私ども沖縄防衛局のほうに問い合わせをすると、運用に係ることなので、把握あるいは照会は行ってないっていうような返答でございます。

ただ、航空機に関しましては、嘉手納飛行場そして普天間飛行場ともに騒音の測定等を行っております。また、離着陸回数の調査なども実施してますので、そういった形での捉え方、必ずしも外来機かどうかというのは正確にちょっと分析することは難しいかもしれませんが、騒音あるいは離着陸回数がふえれば、そういったものがあるというふうな判断はできるかと思えます。

**○當間盛夫委員** だからそういう判断のもとで皆さんがどう考えているかっていうことを答弁してもらいたいわけですよ。

例えばこの伊江島のパラシュート訓練の回数にしてもそうでしょうし、本来天候云々は別にしても、嘉手納飛行場でのパラシュート訓練というのをやらないというようなところもあるんでしょうし、嘉手納飛行場の外来機の離発着の件数っていうんですか。皆さんがそのことで調査する中で、現状どういうふうなことになるという認識はどう持たれてるんですか。

**○溜政仁参事兼基地対策課長** 訓練の状況といいますか外来機—先ほど公室長からも御説明あったところなんですけど、外来機の飛来の回数、離発着の回数等は防衛局のほうでとられてまして、その状況を見ますと、普天間飛行場における航空機離発着回数の外来の回数については—嘉手納飛行場ですね、においては29年度が2万281回。平成30年度が1万2903回となっていて、数としては36%程度減少しているという状況です。

また、普天間飛行場におきましては外来機の飛来回数は平成29年度が415回、平成30年度が1756回ということで、こちらは逆に3倍程度ふえているという状況になっております。

**○當間盛夫委員** 皆さんそういうのはもう少し出すべきじゃない。自分たちで

一県独自で調べた部分が嘉手納は減少傾向。普天間が一5年以内閉鎖状態である普天間が400回から1000回以上。何でそういうふうになっているのかということをおもも少し分析すべきじゃない、その辺は。それを分析する中での対応のとり方をしないと何か開かれないからみたいなことではやっぱり違うんじゃないかなと思うし、皆さんはその分析力がどうあるのかということもなるんだというふうに思ってますし、何か皆さんの基地対の今の状態は、ただ開かれないから仕方ないというふうにしか捉えられてないし、皆さんじゃあ沖縄のこの部品落下による部分でもそうだろうし、沖縄の基地対策って何をしてるのということをおもも言われても仕方ないんじゃないの、その辺。どうその辺を捉えられてますか。

**○池田竹州知事公室長** CWTが開かれてない間も私ども例えば、ことし空軍兵による飲酒運転が多発したときには外務省沖縄事務所、沖縄防衛局と連携しまして嘉手納基地を訪れて再発防止、綱紀粛正の一飲酒運転防止教育の徹底などを申し上げてるところでございます。

事件・事故、事故のほうにつきましてはデータとして例えば今、平成29年普天間基地が大幅にふえてる。これは28年、29年普天間基地の滑走路の補修工事があったことも影響してるというふうには考えております。いずれにしても、航空機の離発着回数もですが、騒音の発生回数という要素もでございます。嘉手納基地につきましては騒音の発生回数でいくと、外来機が大幅に減った形にはなってますけどもそれほど発生回数、いわゆる基準値を超過する測定局の数はかなり多い状況が続いているということで、負担が軽減されてるとは言いがたい状況だというふうには考えております。

**○當間盛夫委員** 公室長だからね、基地を提供しているのは日本政府なわけですよ。それはやはりしっかりと日本政府と今のその負担軽減と言いながら、このことがないんだということは、皆さんもっと強く申し入れる中での、その再発防止含めた負担軽減をどうするのかということをおも、ぜひこれは県民に示すべきだよ。ただ、そのことの進みがないというだけで、事がおさまるわけでもないでしょうし。やはり今防衛大臣もかわったことだし、その辺はしっかりと、やっぱり負担軽減をどうどうしていくんだと。基地の訓練等々の部分をどういう形でやるんだということをおも、皆さんもう少しやはり日本政府と詰めながら、米軍に当たってもらいたいということをおもこれを要望で終わります。

県警のほうなんですけど、最近こういう形で在沖ではない皆さんが逮捕になるのか、ちょっと地位協定の仕組み上わからないんですけど、この皆さんはどう

なったんですか。

○島袋令刑事部長 23日に発生した暴行事件を皮切りに、連続して住居侵入、公妨害発生してはいますが、全員逮捕して事件送致し、検察庁に送っております。現行犯逮捕して事件送致しています。

○當間盛夫委員 その人たちは今皆さんのところで調査をしてるってことなんですか。留置してこうやってるってことの認識でいいんですか。

○島袋令刑事部長 もう既に県警における捜査は一取り調べは終わって、検察庁のほうに身柄を送って、いわゆる検察庁の身柄としてですね、あそこのほうで起訴する、しない等の判断は行われると。

○當間盛夫委員 これは米軍内の施設に今いるという認識でいいんですか。それとも国の、日本のその部分の留置でということなんでしょうか。

○島袋令刑事部長 県警側で逮捕してしますので、いわゆる署のほう一署の留置場に身柄をとって調べをして送ったということで、米軍施設のほうにいるということではありません。日本側というか、県警側の施設のほうで身柄は拘束しているということになるわけです。

○當間盛夫委員 わかりました。部長、近年、皆さんの事件・事故の数値的なものを見ると数字的には減少傾向にはあるんですけど、現実はどういう状況が起きているという認識をお持ちですか、米軍絡み。

○島袋令刑事部長 相対的にいわゆる刑事事件に関しては減少し、減少というか極端に減ってるというわけでは一昔に比べるとかなり減っているという状況で、ことし現在においてもですね、昨年—昨年同期でやるとその辺大差はないというのが現状であります。刑事、刑法犯、刑事警察に関してはですね、という認識を持っております。

○當間盛夫委員 僕らは認識的なものからすると、以前に比べるとやはり、その米軍の海兵隊含め、そういう兵力っていうのは減少しているという認識を持っていいんでしょうかね、その辺は。数的なものが。

○島袋令刑事部長 県警として在沖米軍等のいわゆる数がどうなってるかっていうのはデータの的に知る立場にはないので、その犯罪情勢をもって減ってるのか、そういうことについての意見とか見解というのは述べられる状況にはないと。ありません。

○當間盛夫委員 最後になります。知事公室、今の皆さんその海兵隊を含めたグアムの移転も、もう来年からいろいろと進んでくる部分があるんですけど、この兵力の数—沖縄の在沖の部分でどう認識してますか。どういうふうな分になってるということに。

○池田竹州知事公室長 例えば軍転協などでの要請におきましても、県内に在住してる米軍の人数を公表してほしいと一実は平成23年の6月以降、米側は在日米軍総数は公表するんですけども、地域ごとの人員、軍属の数なども含めまして公表は見送っていると。市町村長からも自分たちの自治体にどの程度の軍人が住んでるかっていうのが把握できない、住民登録も行わない関係で、それはもうぜひ公表してほしいって強い意見がありますので、きょうの軍転協、午後の総会でも引き続き政府に公表—市町村ごとの人数ですね、県だけではなくて居住実態含めまして公表するように求めていきたいと考えております。

○當間盛夫委員 ありがとうございます。

○仲宗根悟委員長 ほかに質疑はありませんか。  
新垣清涼委員。

○新垣清涼委員 公室長、この自衛隊統計資料集、30年、30年度のものしか僕は持ってないんですが、21ページによるとその24年度以降、米軍人・軍属、家族、数値が出てないですよ。これはどうしてですか。

○池田竹州知事公室長 公式だったかあれですけども、いわゆるテロ等への対応上、居住実態を明らかにすることは差し控えるというような説明だったように思います。

○新垣清涼委員 今、山川委員とか當間委員のやりとりを聞いてもですね、米軍・軍人が沖縄にどれだけ入ってきているのか。そしていつ、何名が入れかわっているのかというのがわからんわけですよ。これまでの事件、いろいろ報道

を見ているとその沖縄で事件を起こして、起こしてというか何分後には自分たち飛行機に乗るからということで、その事件を起こして、あわや飛行場に向かうところを逮捕するという事件もありまして、過去には。そういう意味では沖縄は米軍人・軍属の犯罪を起こしやすい、そういう状況をつくってるんですよ。

だから、この人数がわからない。いつ来るかも提供もない、何名が入ってくるかも提供もない。そういう状況についてはこれ強く政府に改善を求め、米軍にも改善を求める。できないんだったらここに来るなど。配置するなど。認めるなどというぐらい強く抗議していくべきじゃないですか、どうですか。

**○池田竹州知事公室長** この点につきましては、県だけではなくて基地所在市町村長からも強い要請がありますので、軍転協の要請で繰り返し政府に対して強く抗議とそして公表するように求めてるところでございます。

**○新垣清涼委員** 最近、部品落下事件も事故というかな、何件か起こってます。落下した時点で通報じゃなくて、何日か後に部品が発見されたというのかな。これは米軍がなのかあるいは民間がなのかがわかりませんが。そういう何か落ちてるよ、おかしい、変なのがあるよということが知られて初めて明らかにするような、そういうことからするともっとあるんじゃないかなって疑問を持つわけですよ。そこら辺の皆さんの調査というのかな、各市町村に対するそういう体制というのはどうなってますか。

**○溜政仁参事兼基地対策課長** 例えば最近起こった—この後にありますけど、パラシュート—伊江島でのパラシュート降下訓練で施設外に落ちたとかっていう場合は、伊江村のほうからまず県の管理空港のほうに落ちたものですから、伊江村から空港課のほうに連絡があって、空港課から当課のほうに来るといったような体制ができているというところです。なので市町村のほうで覚知した場合は、県のほうに情報提供はあるものだというふうに理解しております。

**○新垣清涼委員** 基地のある—所在市町村だけではなくて、それ以外のところにも部品とか、あるいはその落ちる—何か落ちる可能性があるわけですよ。そういう意味では各市町村が基地対策—米軍関係のその部署というのかな、それないかもしれませんがそういう体制をですね、しっかりとしいていただきたいなと思います。これ要望して終わります。

政府に対するこの要請ですね。米軍がとにかくその何ていうか甘やかされてるというそういう状況をつくらんでくれということを強く、僕は文書で申し入

れてほしいなと思います。

それから県警にちょっとお願いなんですけども、この表が毎回出ています。前年同期比の数字ですね。ことしに入ってからのもトータルというのは皆さん数値持ってますか。

○島袋令刑事部長 はい、持ってます。

○新垣清涼委員 これは提供できますかね。ぜひそういう数値をことし1月から9月までに何件こういう事件が発生したのか。前年同期で比較してもどれだけふえてるのか減ってるのかというのはなかなか見えないものですから、ぜひそれ提供をお願いします。

以上です。

○仲宗根悟委員長 ほかに質疑はありませんか。

(「質疑なし」と呼ぶ者あり)

○仲宗根悟委員長 質疑なしと認めます。

以上で、米軍MC130J特殊作戦機からの部品落下事故及び相次ぐ米軍人・軍属等による事件についての質疑を終結いたします。

休憩いたします。

(休憩中に、警察本部説明員退室)

○仲宗根悟委員長 再開いたします。

次に、嘉手納飛行場等におけるパラシュート降下訓練についての審査を行います。

ただいまの議題について、知事公室長の説明を求めます。

池田竹州知事公室長。

○池田竹州知事公室長 ただいま議題となっております嘉手納飛行場等におけるパラシュート降下訓練について、県の対応を御説明いたします。

10月29日、嘉手納飛行場においてことし4回目となるパラシュート降下訓練が実施されました。

県としては、パラシュート降下訓練は、沖縄県民の基地負担の軽減を図ると



いうSACO最終報告の趣旨に沿って厳格に運用されるべきであると考えており、これまで幾度となく嘉手納飛行場で同訓練を実施しないよう強く要請してきました。それにもかかわらず、ことしの嘉手納飛行場における訓練回数は、現時点で既にSACO合意後、最多であった平成29年1年間の降下訓練の回数を上回っております。これは同飛行場におけるパラシュート降下訓練が常態化しているものと言わざるを得ず、強い憤りを禁じ得ません。

県は訓練の通報があった10月28日に外務省沖縄事務所及び沖縄防衛局に対して、翌29日午前に第18航空団に対して訓練を実施しないよう要請しました。また、訓練が実施された10月29日には担当職員を現地に派遣し、訓練の実施状況を確認するとともに、10月30日に謝花副知事から外務省特命全権大使（沖縄担当）及び沖縄防衛局長に対し訓練の実施について強く抗議し、今後、同飛行場においてパラシュート降下訓練を実施しないよう米軍に働きかけることを要請しました。さらに、11月5日に基地対策統括監から在沖米国総領事に対し、同様の抗議・要請を行ったところであり、今後、第18航空団に対し抗議を行う予定です。また、10月29日及び30日に伊江島補助飛行場で実施されたパラシュート降下訓練では、提供施設外に降下する事故が起きており、県は外務省沖縄事務所及び沖縄防衛局に対して、原因究明及び再発防止策を講じ、訓練時の安全管理体制に万全を期すよう申し入れたところでございます。

以上で説明を終わります。

御審査のほど、よろしく申し上げます。

**○仲宗根悟委員長** 知事公室長の説明は終わりました。

質疑はありませんか。

當間盛夫委員。

**○當間盛夫委員** 今回の嘉手納飛行場でのパラシュート訓練の分で、防衛大臣は日米合意に影響するということで遺憾だというような発言をしております。一方で米軍においては準拠してるんだと、協定をとということなんで、この協定に準拠してるっていう米軍の準拠っていうのは皆さんどう捉えられてるんですか。

**○溜政仁参事兼基地対策課長** 今回パラシュート降下訓練を嘉手納で行った後に、米側のほうが情報提供というか、公開がありましてその中では、日米間の合意においては米軍の逼迫した訓練所要を満たすのに伊江島が使用できない場合、嘉手納飛行場を代替地として使用することが認められているというふうに

考えているという報告がございました。

○**當間盛夫委員** SACO合意の中でのこのパラシュート訓練の協定の内容ってどういうことになってるんですか。

○**溜政仁参事兼基地対策課長** SACO合意につきましては、読谷補助飛行場におけるパラシュート降下訓練は、日本政府の要請に基づき伊江島補助飛行場に移転され、同飛行場において実施されるということになっております。

○**當間盛夫委員** 例外的なものがあるよね。だから嘉手納を使うというのがあ。この嘉手納を使う理由的なものはどう捉えられる。

○**溜政仁参事兼基地対策課長** 平成11年の10月21日に外務省と当時の防衛施設庁が共同で報告がありまして、SACO案件に関する日米合同委員会合意についてということで、パラシュート降下訓練を伊江島補助飛行場に移転することについて日米合同委員会で以下のとおり合意したとありまして、その中で……、その後19年1月25日に嘉手納飛行場におけるパラシュート降下訓練についてという報告がございまして、それによりますと、米側はSACO最終報告に沿ってパラシュート降下訓練を伊江島補助飛行場において実施していると。しかしながら米側によれば、伊江島については、天候面での悪条件等、訓練実施に対する制約が多いことから、訓練所要を満たさない米軍兵士が多数生じるとのことであると。こうした実情を踏まえ、米側26日午後、嘉手納飛行場において人命救助のための体制維持のため、緊急を要する6名の隊員によりパラシュート降下訓練を実施するとのことである。平成19年1月26日に嘉手納飛行場において実施されたものです。

政府としては日米安保条約の目的達成のため米軍が訓練を通じて即応体制を維持する必要があることは理解しているが、パラシュート降下訓練については、日米両政府はSACO最終報告に沿って引き続き基本的に伊江島補助飛行場を使用することとしており、嘉手納飛行場はあくまでも例外的な場合に限って使用されるものであるということです。

政府としてはSACO最終報告に沿ってパラシュート降下訓練を伊江島補助飛行場において実施するよう、今後も米側に働きかけていくという考えであるという文書があります。公式に出されたものについてはこの平成19年の報告といたしますか、文書が最後になっております。

○**當間盛夫委員** ちょっと戻って、この10月29日の伊江島、伊江島は先ほど言った訓練の頻度的にそれが過重だったということなのか、天候はどうだったのかというのは調べてますか。

○**溜政仁参事兼基地対策課長** 米側の説明では、これは夜間にパラシュート訓練、降下訓練を行っているもので、火曜日の夜に行われるパラシュート降下訓練については、10月29日時点での天気予報により、伊江島の海象状況は好ましくないということで、嘉手納で行うということになったようではありますけれども、我々伊江村等にも確認していたところ、その天気はそんなにといいか悪くはなくて、実際昼間には嘉手納、伊江島でもパラシュート降下訓練が実施されていたということでございます。

○**當間盛夫委員** 公室長、この分は基本的に日米合意があるから読谷補助飛行場のものを伊江島でやるということは、その合意の中であるというものがあるんですけど、やはりもう嘉手納は例外的ではなくてもう嘉手納は使うなというような、例外だろうが何だろうがとにかくもう伊江島でできないのであればやらないというような部分だとか、そういった要請はできないものなんですか。

○**池田竹州知事公室長** 私ども三連協からの要請も踏まえまして、あるいは地元の議会からの要請も踏まえまして、やはりSACO合意に従って厳格にやるべきであると。

もともと伊江島補助飛行場でやるというふうになっていたものを平成19年、合同委員会の合意で例外的な場合に嘉手納でできるというふうに一後からできるような規定が追加されたものでございます。私どもその合同委員会合意の規定についてもやはりおかしいということで、そういったことはやめていただきたいということを繰り返し、要請しているところでございます。

○**當間盛夫委員** いやだから要請するだけじゃなくて本当にもう、今度、防衛大臣自体がこういうことでは、ということ言ってるわけですから、我々再三もうことしになって、何、4回目、5回目、4回目になるわけでしょ。それからすると、やはりもうこれであればこの伊江島のパラシュート訓練を含めた沖縄でそのパラシュートの訓練はもうやめろというようなものをしっかりと持つべきじゃないの。皆さんその我々沖縄県一県自体、我々県議会含めてまた抗議決議だというんだけど、もう完全にアメリカにもなめられてるし、日本政府にもなめられてるし、その辺を皆さんがどう捉えられているのか、どう捉えられ

てるっていう認識を聞いても仕方ないんだけど。これおかしくなってるよね。何か我々県議会はただ抗議して終わって、皆さんは要請したということで終わって、何にも出口も何にもない。ちょっと今の米軍、米軍関係のそういうものを我々もしっかりと認識を持って、辺野古の問題も皆さんにとって大きな部分があるんでしょけど、やっぱりこう日常に起こってる沖縄でのこの米軍の事件・事故をいかに減らしていくかということをお前さんも我々もしっかりとまた捉えながら、なくしていくっていうことをやっていかなければいけないなというふうな、これは提言として、提言でこれは、助言として終わります。

○仲宗根悟委員長 ほかに質疑はありませんか。  
渡久地修委員。

○渡久地修委員 パラシュート訓練とか含めて、今もありましたけど、米軍のやりたい放題よ。ちょっと目に余るものがありますよね。

最近の報道で岩国沖での死亡事故の問題。それからけさも報道がありましたね。いろんな通報を隠していたとかね。それから岩国所属の航空機でしたか、飛行しながら本読んでた。撮影しながらふざけながら飛行していてそれが事故の原因になった。こういったことがあったと思うんですけど、それ事実関係ちょっと教えてください。

○溜政仁参事兼基地対策課長 先ほども一報道によりますと平成28年の4月28日に嘉手納基地沖でF A 18戦闘機がK C 130給油機と接触し、給油ホースを引きちぎったとのこととあります。当該事故については本格的な調査が実施されなかったというもので、それについて先般、10月18日ですか、報告書が出されているということをお前局から県のほうには報告があったところです。この報告書につきましては、ちょっと1600ページという膨大なもので、全て英文で書かれておりますので、現在詳細一報道の中身について事実かどうか、県のほうでも照会・確認をしているところと、防衛局にも今照会中ということでございます。

○渡久地修委員 あれは、本見ながら飛行やってたということは。

○溜政仁参事兼基地対策課長 報告書の中に写真等が載っております、それは本を見ながら飛行を続けるとか、あるいはスマホで自撮りをするとかですね、そういう写真は掲載されておりました。

○渡久地修委員 それと嘉手納の駐機場の問題ね、駐機場。騒音が激しいから使わないといった駐機場をまた使うということが出てきてるんですね。そういったものはどうなんですか。

○溜政仁参事兼基地対策課長 ちょっと今、資料が手元にないもんですからあれなんですけど、嘉手納の旧海軍駐機場の件につきましては、現在、これまでしばらく使われてなかったところで、先日ですね1度、向こうに入ってまた出ていったという報告がありました。それについては嘉手納町からも我々からも抗議をいたしまして、現在は使われてないというふうに理解しております。

○渡久地修委員 とにかくね、最近の普天間飛行場もそうだけど嘉手納飛行場を含めて、米軍のこのやり方、本当にもう協定どころじゃないよね。地元自治体との騒音防止協定とかそういったものも全て無視、言うことも聞かない、通報さえしない、報告もしない。こっちはもう自分たちの植民地ですと。そういう態度だと思うんだけど、どんなね公室長。

○池田竹州知事公室長 先ほどのMC130Jの通報おくれ、もともと8月にCH53Eから窓が落下したのも2日たってからの通報でございました。それで、通報体制を見直してほしいというのがあったにもかかわらず、今回さらに1週間たって、実は米側は当日もう既に部品を見つけていたというのも判明いたしました。説明も二転三転してるという点などにつきまして、米軍機の事故による通報体制っていうのは日米合同委員会合意で今の手順が定められています。今回のものについては、このMC一所属する353部隊っていうのが18航空団の所属ではないというふうに聞いております。その辺も含めて、合同委員会できちんと検証して、少なくともどのような事故であれ、沖縄県、地元ですね、速やかに連絡するような体制を私どもとるべきだと思っておりますので、そこは強く求めているところでございます。

○渡久地修委員 岩国基地所属の飛行機はずっと嘉手納飛行場とか普天間飛行場にも飛来しますよね、どうですか。

○金城典和基地対策統括監 岩国基地には前普天間飛行場におりましたKC130一給油機、それ以外に戦闘機であるF18ホーネットもいます。こういったものが、普天間または嘉手納基地に外来機として日常的に来てるという認識を

持っております。

**○渡久地修委員** この飛行中に本を読んだり撮影したりするような、あるいは睡眠導入剤とかそういったのを飲んでるようなパイロットが運転する飛行機が日常的に嘉手納飛行場に飛来する、普天間飛行場に飛来する。これ大変なことよね。

これ県も調査行ったと思いますけど、私たち総務企画委員会でドイツ、イタリアに調査行きました。そのときにイタリアのトリカリコ元空軍司令官が言ったのはあの98年だったんだよね。98年にケーブルカーを切断して20名が死亡した事故。あれについて話してましたけど、あれは翌日、アメリカ本国に帰る米兵が無断で遊びのために飛行機を飛ばして切断したというふうな説明を私は受けた記憶あるんですけど、それは皆さんもそういう報告を受けましたか。

**○溜政仁参事兼基地対策課長** 県のほうでも当時—平成29年度にイタリアのほうに調査を行きまして、その委員の御指摘のあったトリカリコ元NATO第5戦術空軍司令官のほうと話をしております。

その中でやはりそのきっかけとなったのは、イタリアにおけるその米軍機の事故、そのケーブルカーの切断事故についてあったということがあって、その中でトリカリコ・プルーアー報告ですか、それについて御説明があったということでございます。

**○仲宗根悟委員長** 休憩いたします。

(休憩中に、渡久地委員から遊びで飛行機を飛ばしていたという報告を受けたかを答弁するよう指摘があった。)

**○仲宗根悟委員長** 再開いたします。

溜政仁知事公室参事兼基地対策課長。

**○溜政仁参事兼基地対策課長** ロープウエーの切断事故についての話と、あとその後の規制についての話は承知してるんですけど、具体的にそのときにどのような、細かいというか、話があったかっていうのは申しわけございません、ちょっと現在承知してないところです。

**○渡久地修委員** 総務企画委員会で行ったときには、そういうことを司令官は

語っていたんですよ。それで裁判で無罪になってアメリカに帰ったということで、この人はもう相当怒って何でこの無罪なんだということで、それからドイツとイタリアの地位協定改定で変えるということになって、アメリカ側に乗り込んでこのように変えるんだということで迫って地位協定が変えられたと。今ではその地方はケーブルが切断されるところの一低空飛行訓練もなくなってますよ。調査に行った新報の記者が向こうにいるけど、彼もそれは知って聞いてると思うんだけど、そういう岩国でのこういったことを許すととんでもない事故が起こると思うんだけど、そういうふうに危機感持ってませんか、どうですか。

**○池田竹州知事公室長** 米軍機一運用、事故など訓練含めまして私ども地位協定の改定について、全国知事会とも連携して取り組んでいるところでございます。

全国知事会が昨年まとめた政府への提言、全会一致でしたけども、それには地位協定の改定もですが、例えば米軍の低空飛行訓練—米軍による飛行訓練というのが今週、県庁訪問しました飯泉全国知事会長もおっしゃってましたけども、実際徳島県でもオレンジルートというルート上で、2年前には頻りに低空飛行訓練が行われていたと。今、米軍基地のこれまである地域—涉外知事会というグループだけでも、いってみたら地位協定などは特定の地域の話題だったのが、どうもそうではない、というのが今全国の知事さんの共通の認識にはなっていないと思います。そういった知事会全体での意向も踏まえて、政府に低空飛行を禁じるような対応、航空法が適用されれば低空飛行は当然できないわけですので、そういった対応を求めていきたいと考えております。

**○渡久地修委員** 最後になりますけど、この米軍のやりたい放題よ、いつまでも許してはいけないと思うんですよ。それで普天間基地に関してはもう我々は運用停止、閉鎖撤去。議会でも求めてますけど、嘉手納飛行場よ。こんなにやりたい放題させてさ、米軍は岩国の所属の飛行機のパイロットもこんな大変な状況で飛ばしてるということですね、いつ重大事故が起こるか分からない。そういうときに県としても、もう嘉手納飛行場使用停止してください、運用停止してください、返してくださいと。僕はここまで踏み込む必要があると思うんだけど、もうそういう時期に来てると思うんだけど、それはどうですか。

**○池田竹州知事公室長** 県としましては、沖縄の基地負担の軽減は着実に図っていく必要があると考えております。それにつきましては、普天間飛行場のS

A C O合意と異なる辺野古移設を除きまして、統合計画も含めまして、嘉手納以南の返還を着実にやると。

あと、当然ながら普天間飛行場、嘉手納飛行場の危険性除去・騒音抑制などについては、騒音規制措置がありますのできちんとそれを厳格にやっていただくよう引き続き強く求めていきたいと考えております。

○渡久地修委員　そういう協定とか一切守らないわけよ。全て無視される。通報もしない。そしてパイロットはもう睡眠導入剤と色々なものを飲んだり、本を読みながら運転、飛ばしている。これはいつ重大な事故起こるかわからないと。そういう意味ではね、やっぱり毅然として、もうそういう運用停止、使用禁止、返せというところまで僕はもう踏み込まないといけないときだと思えます。

終わります。

○仲宗根悟委員長　ほかに質疑はありませんか。

(「質疑なし」と呼ぶ者あり)

○仲宗根悟委員長　質疑なしと認めます。

以上で、嘉手納飛行場等におけるパラシュート降下訓練についての質疑を終結いたします。

説明員の皆さん、大変御苦労さまでした。

休憩いたします。

(休憩中に、執行部退室。その後、米軍MC130J特殊作戦機からの部品落下事故及び相次ぐ米軍人・軍属等による事件についてに係る意見書及び抗議決議を議題に追加することについて協議した結果、追加することで意見の一致を見た。)

○仲宗根悟委員長　再開いたします。

お諮りいたします。

米軍MC130J特殊作戦機からの部品落下事故及び相次ぐ米軍人・軍属等による事件についてに係る意見書及び抗議決議については、休憩中に御協議いたしましたとおり、議題に追加し、直ちに審査を行いたいと思っておりますが、これに御異議ありませんか。



(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○仲宗根悟委員長 御異議なしと認めます。

よって、さよう決定いたしました。

米軍MC130J特殊作戦機からの部品落下事故及び相次ぐ米軍人・軍属等による事件についてに係る意見書及び抗議決議の提出についてを議題といたします。

休憩いたします。

(休憩中に、意見書及び抗議決議の提出の可否、文案及び提案方法等について協議した結果、意見書及び抗議決議を提出すること、提出者は本委員会の全委員とし、本委員会に所属しない無所属の議員にも呼びかけること、提案理由説明者は委員長とし、要請方法は、県外は文書送付、県内は直接要請とし、議員派遣については議会棟においてその趣旨を直接要請することを含め、本委員会の委員を派遣するよう議長に申し入れることで意見の一致を見た。)

○仲宗根悟委員長 再開いたします。

お諮りいたします。

議員提出議案としての米軍MC130J特殊作戦機からの部品落下事故及び相次ぐ米軍人・軍属等による事件に関する意見書及び同抗議決議については、お手元に配付してあります案のとおり提出することとし、提出方法等については、休憩中に御協議いたしましたとおりに決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○仲宗根悟委員長 御異議なしと認めます。

よって、さよう決定いたしました。

次に、嘉手納飛行場等におけるパラシュート降下訓練についてに係る意見書及び抗議決議を議題に追加することについて、御協議をお願いいたします。

意見の一致を見たときは、本件を議題に追加し、諮ることといたします。

休憩いたします。

(休憩中に、議題の追加について協議した結果、追加することで意見の

一致を見た。)

○仲宗根悟委員長 再開いたします。

お諮りいたします。

嘉手納飛行場等におけるパラシュート降下訓練についてに係る意見書及び抗議決議については、休憩中に御協議いたしましたとおり、議題に追加し、直ちに審査を行いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○仲宗根悟委員長 御異議なしと認めます。

よって、さよう決定いたしました。

嘉手納飛行場等におけるパラシュート降下訓練についてに係る意見書及び抗議決議の提出についてを議題といたします。

休憩いたします。

(休憩中に、意見書及び抗議決議の提出の可否、文案及び提案方法等について協議した結果、意見書及び抗議決議を提出すること、提出者は本委員会の全委員とし、本委員会に所属しない無所属の議員にも呼びかけること、提案理由説明者は委員長とし、要請方法は、県外は文書送付、県内は直接要請とし、議員派遣については議会棟においてその趣旨を直接要請することを含め、本委員会の委員を派遣するよう議長に申し入れることで意見の一致を見た。)

○仲宗根悟委員長 再開いたします。

お諮りいたします。

議員提出議案としての嘉手納飛行場等におけるパラシュート降下訓練に関する意見書及び同抗議決議については、お手元に配付してあります案のとおり提出することとし、提出方法等については、休憩中に御協議いたしましたとおり決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○仲宗根悟委員長 御異議なしと認めます。

よって、さよう決定いたしました。

以上で、予定の議題は全て終了いたしました。  
委員の皆さん大変御苦労さまでした。  
本日の委員会は、これをもって散会いたします。

沖縄県議会委員会条例第27条第1項の規定によりここに署名する。

委員 長 仲宗根 悟